

夏合宿：朝日連峰縦走

- ◆日程 2018年8月11日(土)～8月14日(火)
◆メンバー L：須田(健)、栗、山中、日比野、佐藤(俊)、岡村、池本



【夏合宿総括】

2018年の夏合宿は東北の朝日連峰縦走を計画した。2018年は私自身も行ったことがない東北の山に行こうと思い、春合宿は飯豊山を計画したが天候不良のため八ヶ岳に変更した。今回は天候に恵まれ合宿中は雨に降られることもなく、全て予定通りに行動することができた。メンバーも7人と多くの方に参加してもらえたが、新人がいなかったのは残念だ。

夏とはいえそれなりの重量を背負って3泊4日縦走する山行はいろんな要素が詰まった応用編でステップアップするには最適の山行であろう。山での地力を付けるには縦走が一番だ。東北の山に登るにあたり、普段行き慣れている北・南アルプスや八ヶ岳などとはかなり異なる面が多くあり、その対処に戸惑った。例えば朝日連峰や飯豊山は基本的にテントの設営が禁止されており、避難小屋に泊まらなければならない。避難小屋の数が多く、50~100人泊まれるうえ綺麗に管理された小屋が多い。テントがない分装備は軽くなるが、あくまでも避難小屋なので予約はできず、万が一小屋が一杯だった場合はどうなるのだろう、と心配だった。実際2日目の竜門小屋は宿泊者が多く、かなりキツキツの状態では寝ざるを得なかった。

また標高が2000m以下のため夏場は暑く、虫も多いというのが事前情報であった。そのため日焼け止めクリーム、防虫スプレー、防虫ネットなどを準備していったが、予想に反して虫はあまりいなかったため防虫ネットなどは使用せずに済んだ。ただ、最後に宿泊した朝日鉱泉では夜7時半になると羽虫の大群が襲来するとのことで、1時間ほど電気を切られてしまい、真っ暗な暑い中でただじっと我慢するというハプニングがあった。これも東北ならではの経験。普段と違う山域で戸惑うところもあったが、朝日連峰は山容の重厚さ、奥深さが素晴らしく牧歌的な雰囲気がする山々だった。久しぶりに縦走らしい縦走をして、充実した夏合宿であった。

(記：須田)

8月11日(土) 天候：快晴

1 日目は電車を乗り継ぎ鶴岡駅へ、駅からタクシーで登山口に向かいました。移動時間が長く13時近くになってようやく登山口に到着しました。

登山口からは緩やかな樹林帯が続きキツイ登りもなかったのですが、午後の日射しが強くあまり風も通らないので私はとにかく暑かったです。熱中症の心配をしていたらちょうど岡村さんにそれっぽい症状がでていました。行程の半分くらい残っていたので大丈夫かなと思っていたら、岡村さんはその後休憩と水分補給で復活して無事に小屋まで到着しました。

小屋は山の中腹にあり、目の前には大きな湖が広がってその向こうに翌日登る以東岳が見えました。この湖には伝説の怪魚「いとう」がいると山中さんが教えてくれました。もしかして目撃するかも、とちょっと期待しましたが魚1匹見ることはありませんでした。

小屋には私たちの他に10人くらい泊まっていたようですが、広くて綺麗でゆったり使えて快適でした。夕方になると涼しくなり、外でご飯を食べながらあの山頂からの景色はどんなかなと翌日を楽しみに思っていました。この日はまだその道のりを知らなかったもので…。



(記：池本)

CT：東京 7:08 発上越新幹線 Max とき - 新潟 9:15 着/9:32 発特急いなほ-鶴岡
11:23 着ジャンボタクシーで大鳥登山口へ 大鳥登山口 13:10 - ジミヤチ
清水 14:00 - 休 14:40 - 休 15:30 - 大鳥小屋 16:30

8月12日(日) 天候：快晴

タキタロウ(大鳥池)小屋にて朝食をすませ外に出ると青空の下の高原の湖畔にいるようですがすがすがしい朝、湖面は穏やかで周りの山々の景色が写って輝いている。釣り師たちがイワナ、ヒメマスを狙ってルアーを振り込んでいる脇を我々は以東岳目指して歩き始める。ルートは二つあるが直登コースは避け展望コースを登っていく。急坂はあまり無いと思っていたが初っぱなからきつい登りとなるがどんどん高度を稼いでいく。三角峰まではブナ林の中をひたすら登る、三角峰を過ぎると笹原の草原となり高山植物が現れてくる、今年は暑いのでほとんど終わっていると思っていたが、今回見たかった「ヒメサユリ」が咲いていたのでまずは一つ目標クリアした。ヒナウスユキソウ、マイズルソウは残念、花は終わっていた。

オツボ峰からはどうどうとした以東岳が望めた、森林限界以上で日陰がまったく無く強い日射しと格闘しながら黙々と登っていく。眼下には豊富な水をたたえた大鳥池が見える。何とか以東岳頂上に到着、360度のパノラマと自分たちが歩いてきた路がよく分かる。北に月山、鳥海山、西に飯豊連峰と会津磐梯山、東に蔵王連峰と周り中、山だらけであった。これから歩く大朝日岳までの縦走路も良く見える。朝日連峰はどこを見ても濃い緑の山、また山という景色だ。しかも、もっこりした形の山ばかりだ。数年前に来たときは確か雪田がいたところにあり緑と白のコントラストが綺麗な感じと記憶にあった、が今年は暑いので残雪はほとんどなかった。以東岳を下っていくと巨大な花崗岩の塊「松虫岩」をみる、その後はのんびり緩やかな稜線歩きと高山植物を見て楽しむ。しばらく歩くと「狐穴小屋」に到着する。この小屋も綺麗で立派だ。シーズンは小屋番もいて安心して泊まれそうだ。水は豊富で冷たく美味しかった。水温 15~17 度だが風呂もあるようだ。大休止をとり腹ごしらえして出発する、ここからもゆったりした稜線とお花畑を堪能する。途中の寒江山(カンコウサン) 1695m頂上にて「創立60周年記念」の写真を撮る。丹沢「鳥尾山」に続いて第2座目である。

この山もお花畑がすごく「ニッコウキスゲ、ハクサンイチゲ、ミヤマキンバイ、マツムシソウ」など綺麗である。チングルマは種のヒゲ状態であった。お花畑の中を進むと立派で綺麗な「竜門小屋」に着く。管理人のおやじさんが明るく楽しい人で人気の山小屋のようだ。ここも冷たい美味しい水が豊富にある、もちろんビールもある、まずは皆で乾杯するが今日は小屋がほぼ満員とのことでどんどん詰めていく。美味しい夕食後に外に出ると日本海が見えて「漁船の漁り火」と「街灯り」が見えた。夕焼けもとても綺麗だ。山中さんが夕食前に景色に見とれ気持ちよく眠ってしまい起きてから足がふらついたのか低い崖から転がり落ちるハプニングがあったが大事にはならず、本日も無事に就寝となる。(記：雫)



以東岳と以東小屋



以東岳から狐穴小屋への稜線



狐穴小屋



竜門小屋

CT：大鳥小屋 5:20 発 - 休 6:00 - 三角峰下 6:40 - オツボ峰先 8:20 - 以東岳 9:10
- 休 10:30 - 狐穴小屋 11:30 - 寒江山 12:50 - 竜門小屋 14:20

8月13日(月) 天候：晴れ時々曇り、風強い

小屋に泊まっている他のパーティのほとんどが、4時少し前に起きはじめたので我々も起きることにする。中には朝食をとらずに出発していく人もいた。東の空が朝焼けで綺麗なオレンジ色になった。今日は雲が多く、冷たくて強い風が吹いている。出発してすぐに竜門山に着くが看板が何もない。標高が1688m。60周年記念山行の2座目にカウントできるので何もないところで記念撮影。西朝日岳まではゆるやかな尾根歩き。ハイマツと草花で覆われた山肌は緑色で、いかにも朝日連峰という景色だ。歩きやすく気持ちいい。

西朝日岳から大朝日岳まではまだ距離がある。朝日小屋の手前に金玉水という水場がある。山中さんによれば、この水はかなり美味しいらしい。この水を飲むために今回参加したと言っていた。

朝日連峰の最高峰、大朝日岳からは360°景色が見えた。北には昨日登った以東岳が遠くに見える。良く歩いたものだ。東にはこれから登る小朝日岳がある。かなり下つてからの登りなので最後に手強そう。途中、銀玉水という水場がある。個人的には金玉水よりこっちの方が美味しく感じた。小朝日岳の登りはかなり急だ。この縦走で一番きつい。しかし、こちら側から振り返ってみる大朝日岳は、どっしりしていてかっこいい。小朝日岳からは長い下りだ。鳥原小屋で長めの休憩を取りさらに下る。金山沢までの下りは良かったが、その後の下りが長かった。最終日11時間行動の最後、なかなか標高が下がらず疲れがたまっているところに出てきた最後の水場。弘法の水。ここで顔を洗い一杯いただく。今回たくさん水場があったがこの水が一番おいしかった。少しすっきりして下りきると吊り橋があり、到着かと思いきや最後に250歩の登りが待っているというおちがついた。朝日鉱泉のナチュラルリストの家にチェックイン。古民家風でいい雰囲気だ。お風呂が満員だったので軽くビールをいただく。とてもおいしい。お疲れ様でした。お風呂やテラスからは大朝日岳が見える。夕飯もおいしかった。



久しぶりの縦走で長い距離を歩いた。避難小屋泊まりなので荷物が軽く、コースも緩やか天気も良く快適な山行だった。 (記：日比野)

CT：起床 4:00 - 竜門小屋発 5:22 - 西朝日岳 6:33/6:50 - 水場(金玉水)
 -7:50/8:17 - 大朝日小屋⇄大朝日岳 8:29/9:22 - 水場(銀玉水)9:45/9:55
 - 小朝日岳 10:52/11:13 - 鳥原山 12:17/12:25 - 鳥原小屋 12:47/13:30
 - 水場(金山沢)14:17/14:28 - 一本 15:17/15:27 - 朝日鉱泉着 16:18

【参加者感想】

(岡村) 初めての東北の山で、たおやかな稜線と、視界の限り山々が波のように連なる山並みが美しく、天気にも恵まれ、素晴らしい夏合宿だったと思います。しかし同時に、私にとっては試練の多い、とてもためになる山行でもありました。

初日から脱水症状で足元がふらつき、まるで終電を逃した午前1時の千鳥足でした。こんなこと初めてで不安になりましたが、池本さんから経口補水液を処方され、山中さんのウチワで日比野さんに扇いでもらって、徐々に回復しました。2日目からは靴底がはがれはじめ、再び足元がおぼつかなく……。須田さん、佐藤さんにテープや細引きで固定してもらいました。最後までパーティのお荷物状態でしたが、仲間助けられて、どうにか全行程を歩きとおすことができました。みなさん、どうもありがとうございました。単独行だったら撤退していたと思います。また、ご迷惑をおかけして消沈していたところ、雫さんから「無駄な経験はない」というお言葉をかけていただき、救われました。

帰りの新幹線で山形新聞を読んでいたら、前日、この新幹線にクマがぶつかり、タイヤが遅れたという。その最後の一行が秀逸で、「クマは立ち去ったとみられる。」とありました。

(佐藤俊) 稜線にくっきりと道が付いて遥か彼方まで続く、真夏の緑と青空、ほんの少しの雪渓は立ち止まってずっと見ていたい景色だ。熱中症対策には万全を期したが稜線の吹く冷たい風がなければ参っていたかもしれない。避難小屋でビールが飲めしびれるほどに美味かった。

(山中) 50年程前に朝日鉱泉から縦走した記憶がありましたが、今回は逆ルートからの行程でした。人数的に7名だった為、登山口まで大型タクシーの確保ができて、結果、正解だったと思いました。また初日は大鳥池までの緩やかな3時間ほどの行程であり、2日目もいきなりの急登はあったが、朝日岳を見ながらの稜線歩きであり、天気も良く絶好の夏山合宿であった。(朝日鉱泉からだとも初日の登りがきついと思います。) 昨年秋に谷川岳馬蹄形縦走した際は、白毛門のいきなりの急登で筋肉が攣ってしまい心配していたが今回は、問題なく歩く事が出来ました。朝日連峰は水場も多く、特に金/銀玉水の水は最高でした。下山した朝日鉱泉のナチュラルリストの宿も締めくくりとしては完璧でした。リーダー、同行者の方々有難うございました。

【食糧】

8/11 夕食	すき焼き風	アルファ米 100g × 5, 豚肉 400g, 白菜 (きざんだもの), ねぎ 1本, マイタケ (大), わりした 300ml, 麩, きゅうりのQちゃん, 粉末味噌汁 (肉は炒めた後, マイタケはほぐしてから, きざみ白菜はそのまま, 凍らせた。それを銀マット, 防寒具で包んで持参)
8/12 朝食	すし太郎	
8/12 夕食	クラムチャウダーのパスタ	
8/13 朝食	醤油ラーメン	
8/13 夕食	朝日鉱泉	
8/14 朝食	朝日鉱泉	



朝日連峰の花々と昆虫たち 図鑑

(雫)

豊富な積雪に見舞われる朝日連峰は残雪の消えた頃から、色とりどりのお花畑が展開する。今回は残雪が少なく大きなお花畑が現れ、目を楽しませてくれた。



↑タカネナデシコ



↑ハクサントリカブト



↑ハクサンフウロ



↑ウサギギク



↑ニッコウコスゲ



↑イブキトラノオ



↑ヤマハハコ



↑ヒナウスユキソウ



↑ヒナザクラ



↑ウメバチソウ



↑ミヤマダイモンジソウ



↑トモエシオガマ



↑ミヤマリンドウ



↑オオヤマリンドウ



↑マツムシソウ



↑チングルマ (わずかにあった)



↑ハクサンイチゲ



↑ハクサンシャジン



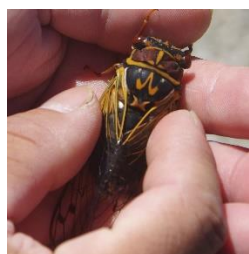
↑ヒメサユリの実



↑前回行った時のヒメサユリと大朝日岳 (残雪多い)



↑エゾハルゼミ



↑ハルゼミ



↑アゲハチョウ



↑山中さん大好きバッタ

※花も昆虫もほんの1部だけが紹介しました。

以上